

津田中学校  
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

夢や目標に向かって、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 清水 勝	委員
	校長 三好 康宏 教頭 川中 善暢 教頭 矢部 淳
	3学年主任 岩佐 真次 1学年主任 西原 義幸

校長

三好 康宏 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全般に、落ち着いた様子で授業が展開できており、真面目で意欲的な態度で授業を受ける生徒がほとんどである。	①基本的な生活習慣の定着に向け、あいさつができ、時間を守る生活を確立する。 ②与えられた課題には確実に取り組むことができる。	・全国調査・ステップアップテストで、平均正答率が県平均以上を目指す。			
課題 どの学年においても、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多く、基礎的・基本的な知識の定着が不十分な生徒が少なからずいる。	①朝学習の5分前スタート、チャイム着席を徹底させる。 ②各教室で「学習のめあて」を示し、ICTの活用や小テストの実施など多様な学習により、わかる授業を実施する。	①朝学習・チャイム着席がきちんとできる生徒が90%を超えるようにする。 ②「授業がわかる・ほほわかる」(アンケート)と答える生徒が80%を超える。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業での「グループ学習・まとめや発表」の実践が増え、自分の考えを説明したり文章にすることについて、少しずつ苦手意識が減少してきた。	目的に応じて、自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。他の人に説明したり、発表するなど、主体的・対話的な学びができる。	・「自分の考えを説明したり文章にしたりするのが得意である」(アンケート)と答える生徒の割合を70%以上にする。			
課題 受け身の姿勢で授業を受ける生徒がまだ多く、持っている知識を活用し、表現する力が身に付いていない生徒もいる。	①学習活動の中で、ペア学習・グループ活動などをさらに活用して、教え合い、記述し、説明・発表する場を多く設定する。 ②発問を工夫し、多くの生徒の発言を導くようにする。	①教員アンケートで「グループ学習を行い、意見をまとめ発表した」割合が80%を超える。 ②発問の工夫を意識した研究授業を、学期に1回以上実施する。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ほとんどの生徒がチャイムで着席し、教科書・ノート等の学習準備も整い、前向きに学習に取り組むことができている。	将来の夢や目標の実現に向けて、家庭学習の仕方、習慣を定着させ、学び続けるモチベーションを持つ。	①「自主学習ノート(3年は整理と対策)」の提出が、90%以上を目指す。 ②「家庭学習が習慣化している」(アンケート)と答える生徒が80%以上を目指す。			
課題 苦手な問題や思考力を問う問題に、時間をかけ粘り強く取り組むことが苦手である。また、家庭学習の方法の習得、及び習慣化ができていない生徒の割合が低い。	①課題の出し方を工夫し確実に提出できるように支援する。不十分な生徒には個別指導を行うとともに、家庭への啓発も行う。 ②家庭学習の時間が確保できるように、計画表を立てさせ結果を記録させる。	①「むずかしいと思う問題にも、あきらめずに考えようとする」生徒が70%以上を目指す。 ②テスト前の計画表や学習記録をきちんとつけられている生徒が80%以上を目指す。		評価	次年度における改善事項

平成31年(令和元年)度 学力向上ロードマップ

